

委員会視察成果報告書

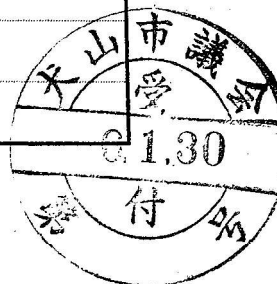
6年 / 月 30日

犬山市議会議長

議員名 鈴木伸太郎

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	6年 / 月 25日(木) ~ 年 月 日() (泊 日)
(2) 視察地	兵庫県宝塚市
(3) 視察の種類	<input checked="" type="radio"/> 常任・特別委員会 (委員会)
(4) 視察成果 (視察地ごとに記入)	宝塚市のDXについて。 (別紙)
(5) 犬山市に 対する提言	(別紙)



出張報告 令和5年1月25日 宝塚市役所

宝塚市のDXについて

先日の尾北5市議員研修会で聴講した、兵庫大学宮崎先生が携わっている宝塚市の「DX推進ビジョン」について学んだ。

宝塚市は面積が犬山の2倍、人口が3倍。阪急のおひざ元、日帰り行楽の手法は全国の電鉄会社が模倣し、名古屋では犬山がその好例。古くから存在する歴史資源に加え、歌劇団、手塚治虫などの芸術文化資源への集客はオンリーワンの強みを持つ。

2021年発表の「行財政経営方針」の中で、DXの本質である「変革」をうたい、【これまでの延長ではない新しい発想での職員育成、時代の変化に対応できる組織作り】のためのDX、職員の業務改革の羅針盤と位置付けた。DXといってもデジタル依存ではなく、あくまでも職員や市民が働きやすい、暮らしやすい、幸せな生活を実現するためのサービス。

2023年3月に「DX推進ビジョン」を策定、全職員に対し

- ・なぜDXを進めるのか？
- ・宝塚市が目指すDXとはどんなものか？
- ・DXで目指す全体像
- ・その具体的な取り組み
- ・DX推進で大切なこと、必要な能力とは？

等を告知、決して高いハードルではない事、誰もが取り組める事などを共通認識とした。

実際に動き出したのは今年度から。

担当部署は企画経営部経営改善推進課、横ぐしを入れやすい体制としている。兵庫大学宮崎先生他数名のアドバイザーと契約しており、週2回ほどオンライン等で指導を受けながら進めている。実務的な部分のリーダーは中途採用（たまたまDXに精通した職員だったという説明だったが、本当か？）

ADUPT（データ利活用推進担当）という、手上げ方式の中から庁内で選抜した職員がHP削減、ふるさと納税、自治会アンケート、窓口混雑予測などを提案し取り組み、成果を上げているとのこと。

全庁向けの研修、業務相談会、新たな業務改革ワーキンググループ（これも手上げ式）で、DXをきっかけに業務改革を推進している。

Kintone を活用して職員自ら作成した業務アプリもあり、これはおそらく今後も増えていきそう。市民向けにもアプローチしやすい情報発信スタイルを展開しており、職員だけでなく、市民も巻き込んだ DX を推進しようとチャレンジしている姿が見えた。

犬山市への提案として、

- ・ DX を本気で展開するのであれば、経営陣直結の部署を作る。
- ・ 横ぐし、全庁横断的な体制で推進する。
- ・ 研修を繰り返す。
- ・ 人材発掘できなければ、中途採用してでも推進する。
- ・ 大学や専門的な知見を有する人材と密接な関係を築き、アドバイザー契約を結ぶ。

その他

降雪の影響で到着が予定より一時間遅れた。当初計画していた市内施設や宝塚市の様子を見ることが出来た時間は充分ではなく残念。それでも、宝塚市民のシティプライド的な空気は参加者全員が感じたと思う。犬山では、市民生活とはあまり密接に感じない観光資源も、宝塚市では、まちづくり、地域コミュニティ、市域全体のバランス、街の景観などを通して、市民生活の隣にあるような雰囲気、市民の誇りにつながる取り組みがさまざまな場所で為されている印象を受けた。以前訪問した歴史資源に立脚した鎌倉市のシティプライド、芸術文化に立脚した宝塚市のシティプライド、そのあたりは犬山のまちづくりとの違いを感じる。まちづくりと観光、まちづくりと芸術文化など、市民生活と自治体の取り組みとのマッチングが、市民の幸福感にどのように影響してくるのか、改めて考えていきたい。

以上